

卓越大学院プログラム現地視察報告書(令和5年度)

卓越大学院プログラム委員会

機 関 名	金沢大学	整 理 番 号	1 9 0 8
プログラム名 称	ナノ精密医学・理工学卓越大学院プログラム		
プログラム責任者	大竹 茂樹	プログラムコーディネーター	華山 力成
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学長の交代後も学長の強いリーダーシップの下、教育プログラムの整備、NanoQE の実質化、インターンシップ、海外留学など全体的には順調に進捗している。 ・ KPI についても良好な達成状況。学生ベンチャーの令和7年度までに2件の目標が現在未だ1件のみだが、大学の研究成果を事業化する出資会社を作る等の努力を進めている。 ・ 学生に対する経済的援助は引き続き充実しており学生が学業に専念できている。 ・ 学生の多くが融合領域研究を希望してプログラムに応募しており、プログラムの目指すところが学生に良く浸透している。 ・ 前回の現地視察で指摘された、資金計画、クラウドファンディング、企業との連携体制強化、英語での説明資料、学生への周知等、良く対応していると評価できる。また、民間資金で産学官金連携のセンターが設置されたことも評価できる。更に、広島大学だけではなく筑波大学の卓越プログラムとの交流も開始、3大学での交流会が計画されている。 ・ 中間評価で指摘された点に関しても、全ての学生が AFM を利用して研究成果が出せるように学生募集から明確化したことをはじめ、真摯に対応していると評価できる。 <p style="text-align: center;">【大学院教育全体の改革への取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学長交代後も現学長のリーダーシップの下、大学院改革が以下のように着実に進んでいる。 ・ 大学院 GS 基礎・発展科目が R4/4 に完成、プログラム外の学生へも波及している。 ・ R5 からはラボローテーションの必修化、ダブルメンター制度を実現している。 ・ 異分野融合研究の全学展開や大学院の5年一貫型制度実現に向けた努力を進めている。 <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の多くは異分野融合研究を希望しているようだが、研究交流の場が少ないと感じており、リトリートや研究報告会など異分野交流の機会を増やす工夫が望まれる。 ・ ラボローテーションの期間が短く十分な交流にならないと感じている学生もおり、状況を把握した上での対応が望まれる。またダブルメンター制度についても、選ぶ範囲を広げて欲しいとの学生の要望が強かった。 ・ 経済的援助が明示的な差異化要素にならなくなっている中で、努力して選ばれたと思っている学生の承認欲求に応えられる方策（当該プログラムのブランド化）も望まれる。 ・ 企業のインターンシップについては拡充してきているが、共同研究、教育サービスの提供など、リソース獲得を含む企業とのさらなる連携も望まれる。 ・ 海外研究留学については希望する学生も多く、多くの学生を集めての研究報告会実 			

施や、ダブルディグリーを含むより長期の研究留学も検討に値する。